

平成25年度予算見積調書

課室名：河川砂防課
 担当名：中川・綾瀬川流域担当
 内線：5138 (単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業		
B303	命をつなぐ川の消火基地づくり推進費			一般会計	土木費	河川費	河川改良費	河川消防水利整備費		
事業期間	平成25年度～平成27年度	根拠法令	なし				戦略項目	05	大規模災害への備え	
							分野施策	010502	震災に強いまちづくり	
1 事業の概要 阪神・淡路大震災では、水道管が破断したため、消火栓が使用不能となり、河川水を土嚢や瓦礫等でせき止めて消火用水として取水した。 本県でも、大震災によって水道管が破断し、消火栓が使用できなくなる事態が想定される。 そこで、密集市街地を流れる都市河川において、災害時の消防水利として「川の消火基地」を整備する。 (1)川の消火基地整備 80,000千円				5 事業説明 (1) 事業内容 川の消火基地整備 80,000千円 (整備内容：看板設置、扉付フェンス設置、階段通路整備、取水ピット整備) (2) 事業計画 ア 平成25年度整備箇所 35箇所 (越谷県土整備事務所管内他2事務所管内) イ 全体計画 100箇所 (") (3) 事業効果 川の消火基地の整備により、震災時において消火栓が使用不能となっても、河川沿いの市街地で消火のための送水が可能となり、大規模火災での延焼防止に寄与できる。 (4) 県民・民間活力、職員のマンパワーの活用、他団体との連携状況 川の消火基地の管理は、地元市及び地元消防と連携して行う。 (5) その他 地域防災計画上の位置付け 震災対策編 第2章 第9節 「震災に備えた体制整備」 県及び市町村は、今後、火災の延焼拡大の危険が高い地域や消防活動が困難な地域、避難所周辺等を中心に、耐震性貯水槽や耐震性のある防火水槽の整備、ビルの保有水の活用、河川やプール等の自然水利の開発や確保をより一層推進していく。						
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)										
3 地方財政措置の状況 一般事業 (うち河川等事業) 債 充当率90%										
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×0.2人=1,900千円										
財 源 内 訳										
予算額								一般財源	前年との対比	
決定額	80,000	県債							7,000	80,000
前年額	0							0		